

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人箕面市メイプル文化財団	
施 設 名	箕面市立メイプルホール	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	2,277	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,076 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,201 (千円)

1. 事業概要

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ステージ・ラボ「みのお キッズシアター 第17 弾」	【練習】 令和5年5月24日～8 月25日 【成果発表】 令和5年8月26日・27 日	[成果発表スタッフ] 脚本・演出:小寺弘之 脚本協力:優行 人 振付:生駒里奈 音響:原武史(株 式会社7イ・エス・エス) 照明:中村雅彦(株 式会社7イ・エス・エス) 舞台監督:飯田勝 士 [助演(プロ)] 末成映薫(吉本興行(株))、都築俊(俳 優・(株)ビックワウエスト)、猪岡千亮(俳 優・Emotion Factory)、鏡蘭丸(み のおキッズシアター過去参加者・(株)MAKOTO) [内容] 街の演劇サークルを舞台に、お芝居 の楽しさ、ステージの魅力をカいっ ぱいに描く、ドタバタ・キッズ・コ メディ	入場者数 750 参加者数 30	
		箕面市立市民会館、 箕面市立メイプルホー ル 大ホール		入場者数 597 参加者数 36	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演劇ワークショップ「家族の景」	【ワークショップ】 令和6年1月27日～3月15日全12回 【成果発表】 令和6年3月16日・17日	構成・演出：多田淳之介 舞台監督：武吉浩二((株)かほり) 音響：多田淳之介、太田祐輔((株)アイエス) 照明：護得久加奈・中西早織((株)アイエス) アシスタント：桑原日和・林亮汰 [成果発表内容] 年代別(10代～20代/30代～50代/60代～70代)「家族についてのフリートーク」、寸劇「家族の景」全3部、スピーチ「私の家族」	目標値	入場者数 140 参加者数 20
		箕面市立メイプルホール 小ホール		実績値	入場者数 89 参加者数 21
2	音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」	令和5年5月20日～12月3日全8回	[講師] 布施砂丘彦(演奏/批評/企画/コントラバスおよびヴィオローネ奏者/朝日新聞 CD 評の執筆/ミハヤエル・ハイドン・プロジェクト主宰/箱根おんがくの森アートディレクター/代表作「いつ明けるともしれない夜また夜を」) [内容] 講座①「音楽とは何か?」「批評とは何か?」 講座②「シン・西洋音楽史」作曲家の英雄譚ではない音楽史。中世から現代まで。 講座③「いま、これから、音楽の作り手は誰か?」 講座④「古楽とは何か?」 講座⑤フィールドワーク 箕面の観光名所「滝道」へ 川のせせらぎ、鳥のさえずり、森のざわめき、虫のいななき。滝道は豊かな自然の音楽に溢れています。そんな滝道を歩きながら、片耳だけイヤホンをして、音楽を聴く。流れてくる音楽と自然のささやきが交差し、自分だけの音楽が生まれます。箕面の歴史と自然を学び、音楽を作る、フィールドワークです。 講座⑥実際の音楽作品を読み解く。「いつ明けるともしれない夜また夜を」の批評。 講座⑦批評の発表と講評。 講座⑧まとめ	目標値	参加者 15
		箕面市立西南生涯学習センター、箕面滝道		実績値	参加者 17

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

箕面市立メイプルホールの果たすべき役割は、「子育て・教育日本一」を掲げる箕面市の施策と連携し、「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」の前文にあるように「新しい広場」となって、子どもも大人も住んでいて潤いと誇りを感じる活力ある町を実現する事です。そのために、北摂地域（大阪府北部、阪神北地域）の文化を牽引する存在となり、文化芸術の継承、創造、発信を通して、「一度関わると記憶に残り続ける文化体験」を共有する場となる事が大切だと考えています。次の4つの具体的なミッションを掲げ、私たちホール職員は創意と知見をもって、その遂行のために一丸となって努力しています。

◆メイプルホールが果たす4つのミッション（館長を中心に職員で話し合い、皆の総意として決めました。）

①特色ある実演芸術の鑑賞機会を提供することで、大都市圏に集中している鑑賞機会の偏りを改善します。

→助成対象外事業《身近なホールのクラシック》「ブラームス交響曲全曲演奏会 Vol.2・3」、「弦楽六重奏の魅力」
「桂米朝一門会」、劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」ほか

②専門家、教育機関、文化施設等と連携・協力し、前述の前文にもあるように、将来の文化芸術活動を担う人材を養成します。

→人材養成事業1「みのおキッズシアター第17弾」

③住民が実演芸術に関心を持ち、各々の暮らしの中へと、浸透する環境作りを行います。

→普及啓発事業1 演劇ワークショップ「家族の景」

普及啓発事業2 音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」

助成対象外事業「ワンコイン・コンサート 金井晶子トランペット・リサイタル」、「メイプルおでかけARTプログラム2023 トライアル」（市内小中学校アウトリーチ）ほか

④様々な文化芸術情報の周知により国際社会の発展に寄与する「世界への窓」となり、住民の町への愛着と誇りを醸成します。

→助成対象外事業《身近なホールのクラシック》「アレクサンドル・タロー ピアノ・リサイタル」

令和5年度の助成対象事業では、人材養成事業・普及啓発事業いずれに関しても上記のミッションにもとづいて当初の予定通りに事業計画を実施し、当ホールの社会的役割や地域の特性等に基づいた事業が実施できたと考えています。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

人材養成事業「みのおキッズシアター第17弾」は、小学3年生～高校3年生の子ども達が、舞台芸術のプロと共に本格的な作品作りに挑戦する事業で、まさに地域の文化振興に資する人材の養成に貢献することができ、将来の文化芸術の水準の向上に寄与する事業と考えられます。子ども達は多様な考え方や表現方法に触れ、つながりを得て視野を広げ、大きく成長する場としても地域社会において唯一の機会となっています。

普及啓発事業の演劇ワークショップ、音楽講座においても、アーティストと参加者が対話を重ねることにより、他にはない創作の場となり、実演芸術への理解を深め、のちに鑑賞する際にも糧となる体験を提供することができたことから、一歩進んだ鑑賞者の育成につながり文化的意義があったと考えます。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1. 人材養成事業

◆事業1 「みのおキッズシアター第17弾」

目標①【定員充足率】 申込数／定員数 目標 98.0%

定員 30 名に対し 36 名の応募があり、達成率は目標を大きく上回る結果となりました。

目標②【新規参加者率】 新規者数／参加人数 目標 45.0%

実績は 27.7%にとどまり目標未達となりましたが、その要因の一つとして本事業は多くのリピーターによって支えられている側面もあります。継続事業が地域に受け入れられ定着していくことで変化が見えづらくなるマンネリ化という問題について主催者として葛藤しています。

目標③【満足度の向上】 参加者アンケートの満足度 目標 100.0%

すべての参加者が参加したことに意義を感じ、次回もまた参加したいと回答しています。

2. 普及啓発事業

◆事業1 演劇ワークショップ「家族の景」

目標①【定員充足率】 申込数／定員数 目標 75.0%

20 名の定員に対し 21 名の応募があり目標を上回る達成率となりました。

目標②【意識や行動の変化】 参加者アンケートの変化を自覚した割合 目標 85.0%

実績は 66.7%にとどまり目標未達となりました。

目標③【満足度の向上】 参加者アンケートの満足度 目標 85.0%

実績は 96.7%と目標を大きく上回る達成率となりました。

◆事業2 音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」

目標①【定員充足率】 申込数／定員数 目標 75.0%

15 名の定員に対し 17 名の応募がありいずれも目標を上回る達成率となりました。

目標②【意識や行動の変化】 参加者アンケートの変化を自覚した割合 目標 85.0%

実績は 53.8%にとどまり目標未達となりました。

目標③【満足度の向上】 参加者アンケートの満足度 目標 85.0%

すべての参加者が参加して良かったと回答し、目標を大きく上回る達成率となりました。

目標②については、事業1・2ともに未達となりましたが、「参加して新たな発見がありましたか」という問いに対し演劇・音楽共に参加者全員が「発見があった」と回答しており、芸術との関わりに広がりや深まりが生まれたことが分かります。演劇作品作りに集中してのめり込んだり、時間をかけて音楽と向き合うことが参加者にとって有意義だったことが分かります。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◆人材養成事業1「みのおキッズシアター第17弾」

週3回の練習は、他の活動と並行するとそれなりにハードなものとなり、今回は手術後の安静のため出演を断念した参加者がいたため、短期集中して取り組む中でも安全に参加者全員で舞台発表に臨めるよう、演出スタッフと協議を重ねたいと考えています。

◆普及啓発事業1 演劇ワークショップ「家族の景」

ワークショップ日数12日間について、参加者同士の仲を深めることからクリエイションに至るまで問題なく進めることができました。1日の時間は長めですが、その日の課題に取り組みつつ、休憩時間に一緒に食事をとるなどワークショップ外でコミュニケーションをとる場ができました。本番は2回公演とし、参加者にとって振り返り、新たな課題にトライする心の余裕が生まれている様子が見て取れました。

◆普及啓発事業2 音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」

批評という活動について、アーティストと参加者との対話に時間をかけ、「すべての回が最終回に繋がっていた」という参加者からの感想も寄せられ、盛りだくさんの内容を上手く8回に組み込むことができました。途中2か月間が空いた回があったため、次回にはバランスよく設定したい点です。

なお、いずれの事業も4月発行の「主催事業ラインナップ」に掲載し計画的に告知することができました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業、普及啓発事業ともに支出に対して収入が低くなっていますが、将来の地域の文化芸術の水準の向上に寄与する事業、また、地域住民が実演芸術への理解を深め鑑賞者を育成する事業という目的に見合った参加費・入場料の設定であると考えています。経費についても全体的に節減に努めた上で、当初の計画通りに進みました。

差額については、箕面市立文化ホールおよび箕面市立生涯学習センター全5館の指定管理料や、市主催の受託事業収入、外部資金の調達等によって補い、財団全体において健全な収支バランスとなるよう心がけています。

◆人材養成事業事業1 「みのおキッズシアター第17弾」

指導料や脚本・演出料といった演出・指導スタッフに多くの経費を割き、3ヶ月の集中的な練習を充実したものとしています。また、チラシ・ポスターについては、公演の来場者のほとんどが参加者関係であることから、箕面市内隅々まで情報が行き渡るよう、有効かつ効率的に周知できる数としています。

◆普及啓発事業1 演劇ワークショップ「家族の景」

◆普及啓発事業2 音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」

人材養成事業同様に、アーティストやスタッフにかかる経費が多くを占めています。この2事業はいずれも関東在住のアーティストを招聘し、適切な謝礼であると考えています。また、事業2音楽講座については、他に例を見ない取り組みであることから、地域から全国へ向けて新たな価値を発信することも大きな役割であると考え、広報宣伝費を積算してPRやレポートを掲載し、実際に他府県からも関心が寄せられました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. 人材養成事業

- ・子どもたちを対象に、専門家、関係機関と連携し、実演芸術の研究・発表の場を提供することができました。
- ・大阪を拠点に活動するプロの演出スタッフの指導のもと、新年度を迎えた5月から演劇の基礎を学び、夏休みの舞台発表まで、小学3年生～高校3年生、全36名のさまざまな年代・背景の仲間が共に演技の研鑽に励みました。
- ・新規参加者は、友人・親戚の出演している姿を見て自分も参加したいという動機が多数でした。また、箕面市教育委員会の学習支援アプリ・トモニクスに参加者募集記事を掲載し、それを見て応募した例も多く、効果的に学校教育現場との連携が図られています。演劇の練習はコミュニケーションを重ね人間関係を築き上げることも大変役立ち、新規参加者もリピーターも一つの作品を作り上げる仲間としての繋がりを深めることができました。
- ・関連事業「キッズシアター体験会」には5名（うち3名が対象年齢前）の子どもたちが参加。シアターゲームで緊張を和らげ、五感を使って初対面の人たちと信頼関係を構築する体験をしてもらいました。
- ・舞台発表には597名の来場があり、89.9%が出演者等の案内による来場でした。良く知っている子どもたちが舞台上立つ特別な姿を見て、そのクオリティの高さや一人一人のキャラクターに対し感動したという声が多数寄せられました。



2. 普及啓発事業

- ・住民が実演芸術に関心を持ち、各々の暮らしの中へと浸透する環境作りを行うことを目的に参加型事業を実施し、住民が抱えている諸課題に触れるとともに実演芸術への理解を深める取組みができました。
- ・「演劇」と「音楽」分野において各々の特性を活かした参加型事業を実施し、良い経験を重ねることで生まれる、意識と行動の変化をもたらすことができました。
- ・ホールとアーティストが協働し創り上げる独自の内容で、表現・創造する楽しさを体感することができました。



自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◆人材養成事業1 「みのおキッズシアター第17弾」

小学3年生～高校3年生を対象に本格的な舞台芸術作品づくりができる場として、地域では唯一の存在となっています。中学校の演劇部も市内で1校のみとなっており、子ども達が演劇に取り組める機会はほとんどありません。また、校区や年齢の壁を越えて経験を問わず参加できることにより、学校、家庭とはまた別の「みのおキッズシアター」という居場所が子ども達にとって大きな存在となっています。実際に参加した子ども達からは以下のような声が寄せられ、子どもたちに「生きる力」「つながる力」をつけてほしいという地域のニーズに応えることができています。

- ・3か月がとても濃く、最高の先生、友達！！ボク達に必要な場所です。
- ・皆で一つのを成功させられたことが楽しかったです。
- ・普段できないような経験がたくさんできた。
- ・幅広い年代の子たちと1つのことができて楽しかったです。
- ・別の学校や違う年齢の人たちと関わって楽しい。
- ・初めてで緊張してたけど、みんなが優しくしてくれた。
- ・友達ができて練習が楽しかった。
- ・自分のできること、やりたいことをのびのびとできる。
- ・自分が成長できた。
- ・とても楽しかったし、自分に自信がついた。

◆普及啓発事業1 演劇ワークショップ「家族の景」

演劇のもつ多彩な効能の中から「自分自身あるいは他者と向き合う」ことに注目し、演出家・多田淳之介氏を招聘。声や身体を使った演劇的なワークで参加者同士の仲を深め、少しずつ家族について語り合いました。最終的には「お客さんと考えたい家族の問題」を創作、寸劇で発表し、参加者同士対話を重ねてきた内容を来場者とも共有することができました。来場者からも「考えさせられる内容でした」「気づくことのできない、様々な家族の形を知ることができた」と、発見や気づきが創作活動から広がっていくという地域にとって貴重な場になりました。また、このワークショップは世田谷パブリックシアターによるSPTラボラトリーレクチャー「地域の人とつくるオルタナティブな演劇」で事例発表を行いました。全国各地で活動するアーティストを介し、劇場間や演劇に携わる人たちに繋がりが生まれた良い例となりました。

◆普及啓発事業2 音楽講座「いつ明けるともしれない夜また夜を」

新進気鋭の批評家・布施砂丘彦氏を起用し、優れた知識や新しい価値観を市民と共有しました。圏域内外の音楽シーンに影響を与えるだけでなく、鑑賞・批評活動の広がりを地域から発信することができました。参加者には実際に批評に取り組んでもらい、創造活動の楽しさを味わいながら、一人ひとりの内面に変化が訪れることを大切にしました。

また、取材・レポートとして、エンターテインメント・フリーペーパー「MEG」とWebメディア「フロイデ」に取り上げられ、参加締め切り後、実施期間中も問い合わせやホール関係者・音楽に携わる専門家の聴講依頼があり注目を集めました。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【経営戦略】認めます。

経営の安定化に関する対応として、設置者（箕面市）とは常日頃から緊密な連携を図り、当ホールの収入の柱である指定管理料を確保しています。加えて、受託事業収入（箕面シニア塾[箕面市、箕面市教育委員会から受託]、船場生涯学習センター窓口業務委託[大阪大学から受託]）、大阪府からの助成金、企業からの協賛金を獲得でき、持続的発展につながっています。

【人事戦略】認めます。

人財育成方針に基づき、助成対象事業を通じた、実演芸術の公演等を企画制作する能力を有する人材の養成に取り組みました。芸術創造セクションに配置した責任者1名（40代）及び主な担当者2名（30代と20代）は、OJTとアートマネジメント研修により、各自の能力を十分に発揮し得る職場環境の確保を行いました。アートマネジメント研修は年間6回実施。外部講師として、吉田佐和子氏（福知山芸術文化振興会代表理事）、森岡めぐみ氏（（公財）神戸市民文化振興財団演奏事業部長）、長野隆人氏（いわき芸術文化交流館アリオス副館長）を招聘しました。

【ネットワークの構築】認めます。

定例の公文協近畿支部会と大阪府文化施設連絡協議会、及び、劇場、音楽堂等連絡協議会での施設間の情報交換を実施しました。事業面では、大阪音楽大学が事務局を務め、阪急宝塚線沿線の8つのホールが連携する「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT！」の実行委員会への参画、大阪大学、大阪青山大学と大学連携、市内5つの外郭団体が構成するもっとネット会議にて地域課題の共有と人材交流を行いました。アウトリーチにおいては、会場を地域に求め、みのおキューズモールと連携したキューズステージイベントを年間6回実施しました。定例会として、地域の文化活動の要となる団体市内3つの生涯学習センター利用者協議会の支援交流を行い、事業実施の際の協力関係を構築しています。これらのネットワークにおいて、いずれの団体とも当ホールのミッションを共有し継続的な協力関係を築き、持続発展的につながっています。

【PDCA サイクルによる改善と機能強化】認めます。

助成対象事業のアンケートに加えて、施設利用者へのアンケート、箕面シニア塾受講生へのアンケートとそのフォローアップ・アンケート、生涯学習講座でのアンケートを基に、現場から得た情報・知見・課題は、近隣の学校、地域の文化団体、一般市民から成る企画運営委員会で報告、協議内容を現場にフィードバックし、改善しました。またアートマネジメント研修の場でも協議を重ねることで機能強化につながっています。

さらに、設置者による事業評価（指定管理者の評価に係る意見交換会、合議）および運営者による自己評価（事業担当管理職・担当者の定例会議、役職者会議月2回、理事会年2回以上）を定期的に行っています。